

中外雑記

真言

懸命な救援活動続く

●**高野山** 太融寺（大阪市北区）に設置された兵庫県南部地震の災害救援本部では、青年教師会のメンバーはもとより、他派の智山派や豊山派などからも若手僧侶が多数駆けつけ、懸命にボランティア活動を実施している。また、高野山大学の学生も学期末試験終了後、約三十人が加わる予定

▽同本部では西宮市の門戸厄神（東光寺）に拠点置き、避難場所となっている市内の平木小学校、上ヶ原小学校、甲東小学校などで炊事、清掃、仮設住宅の建築に使用する資財の運搬等の救援活動を行なっている。これまでに北海道から四国まで、延べ人数にして約二百人が参加。早朝から夜遅くまで、懸命の救援活動が続いている。同本部では、「今後は被災者の心の問題が生じてくると思う。現在、避難所では雑魚寝状態で、着替えも満足にできないのが現状だ。プライベートを守るため、小さな着替え用テントを設置することも考えなければならないと思う。今後も集団生活でいろいろな問題が生じてくるだろうから、被災者のストレスを解消していくことが大切だ」と、今後とも被災地からの報告を綿密に検討しながら対策を考えていくようだ。

その後の被害状況

●**東寺真言宗** 宗務庁がその後調査した兵庫県南部地震の被災寺院は、三十一日午前九時現在以下の通りである（一部は既報の通りで重複する）

▽神戸市中央区大龍寺（井上仁性住職）、本堂は無事、仏像と塀、墓標、護摩堂、奥の院ほか建物半壊

▽同区・宝珠寺（市村隆玄住職）、本堂の本尊損壊、隣のビルが倒壊しそうなので昼は北区の知人宅に避難

▽兵庫区・東照寺（向井春光住職）、本堂半壊、瓦全部落下

▽長田区・西代寺（高木寶瑞住職）、本堂・庫裏とも全壊。木田有岳氏夫人死亡、高木住職の居宅が全焼

▽同区・寶塔院（神先賢雄住職）、全焼、住職家族は無事

▽同区・地藏院（阿草文也住職）屋根と壁が半分程度損壊、住めない。住職、家族は無事で庫裡は残った

▽同区・善心寺（藤原大善住職）、天井が落ちて住めない。住職、家族無事、建物の外側が立っているだけ

▽同区・延命寺（平尾量海住職）、外壁が崩れ、外が見える。住職家族は無事

▽同区・靈山院（衣笠散文住職）、殆ど全壊、柱は残ったが、空が見えており、住めず、車の中で寝ている。信徒会館も半壊

▽同区・明照寺（榎本博一住職）、殆ど全壊。特に屋根と壁。新築中の本堂全壊。夫人が発熱

▽同区・弘恩寺（祝宏友住職）、屋根が崩壊、住職、家族は無事

▽同区・安楽院（杉本信照住職）、墓と大師堂、地藏堂が損壊

▽灘区・実相寺（頼富本宏住職）、本堂の瓦全部落下

▽須磨区・厚福寺（南奉宏明住職）、本堂屋根瓦全壊、内部損壊、庫裡も屋根と壁が損壊、亀裂あり

▽北区・聚楽院（徳山明鏡住職）、本堂の大黒柱が折れる。煉瓦と山門の全瓦も落下

▽宝塚市・平林寺（喜多川義晃住職）、瓦がずれる。本堂の中の壁落下。他の建物壁損壊、脇仏の損壊

▽同市・成就院（喜多川義寛住職）、瓦ずれる。柱がねじれる

▽同市・了徳院（高岡義雲住職）、本堂傾く。供養堂、会館全壊
▽兵庫県猪名川町・安楽寺（漆原熙真住職）、庫裡と塀の一部を破損
▽大阪市福島区・持明院（佐久間義雄住職）、塀の一部破損
▽大阪市阿倍野区・正圓寺（辻見有山住職）、釈迦堂の壁が剥がれて亀裂あり
▽大阪府交野市・星田寺（金剛真晃住職）、塀の瓦幅約十メートル落下。

こんな時こそ援助を

▽既報の通り、藤原義章宗務総長、橋本尚信庶務部長、松下降洪宗議会副議長の三氏は一月三十一日に開かれた兵庫県南部地震緊急対策会議の終了後直ちに見舞いと視察のために被災寺院を訪れた。三十一日には灘区の実相寺（頼富本宏住職）、長田区の西代寺（高木寶瑞住職）、延命寺（平尾量海住職）、明照寺（榎本博一住職）、安楽寺（杉本信照住職）、靈山寺（衣笠敬文住職）の六カ寺を見舞った。また、二月一日には加古川市に避難している弘恩寺の祝宏友住職、明石市の大徳寺に避難している寶塔院の神先賢雄住職、須磨区の厚福寺の南奉宏明住職をそれぞれ見舞い、激励した。藤原宗務総長は「実際にこの目で見てその大変な状況に驚いています。電話で聞くのとは大違いです。全壊も半壊も結局は全部建て替えなければならないと思う。二月二十日には二回目の対策会議を開き、再度義援金を呼びかけるつもりです。こんな言い方は誤解を招くかもしれませんが今は、物資よりも現金です。今回、二日間行きましたが、また、被害の比較的小なかった大阪も含めて行くつもりです。今回、皆さんが『復興に向けて頑張る』とおっしゃっていただいたことが嬉しいことでした。こんな時こそ宗団としてできるだけの援助をし、お役にたちたい」と話した。

神社界

節分行事にも震災の影

●兵庫県南部地震による震災地では、節分の行事を中止する神社が多かった。伝統ある節分行事で有名な長田神社（津田信基宮司、神戸市長田区）や湊川神社（吉田智朗宮司、中央区）では、恒例の節分行事は開催せず、神事として復興祈願祭を斎行、氏子区域、そして震災地の今後の平穏無事と復興を祈った

▽中央区の生田神社（加藤隆久宮司）では、倒壊した拝殿の前で、加藤宮司が節分神事と厄除け祈願祭、復興祈願祭を斎行した。式典には復旧作業に携わる工事関係者らも参列し、拝殿復旧作業の安全と神戸の街の復活を祈った。例年のような豆まき行事は行なわれなかったが、豆まき用の福豆を神職、巫女らが避難所の小学校などに配り、氏子との交流を図った

▽祭舎が倒れた西宮市の廣田神社（中山隆宮司）では、比較的被害が少なかったこともあって境内には篝火が灯され、恒例の「節分篝火」の行事が斎行された。午前八時前、旧年中に使用された神札や注連縄に火が付けられたが、今年は震災で壊れた神棚なども持ち込まれた

▽また、日本一の節分で知られる京都の吉田神社（宮下務宮司）では、例年通りの神事が斎行されたが、神社では神事の前に地震の募金を参拝者に呼びかけるなど、被災地への配慮を行なった。境内は地震などの“邪気”を祓い、幸せを願う人々で溢れたが、毎年大阪で開催されていた節分関連のイベントは中止された。

天台

岡山仏青も地震救援活動

▽一月十七日の兵庫県南部地震に対し、各教区の仏青の被災地での活躍が聞かれる。岡山教区第四部仏青（森田良澄会長）でも一月二十二日、岡山県の日満屋ハッピータウン鴨方店前で、救援募金のための托鉢が実施された。集まった義援金は三十九万一千五百六十八円になり、山陽新聞社、岡山教区義援金係、神戸市災害対策本部の三カ所に送金された。また、一時的な支援に終わってはならないという会員からの声で、岡山仏青救援支援部県南班を結成し、一月二十六日に現地に救援活動に向かった。うどんとカップするこのほか、生活物資、ポリバケツ、ポリタンク、水などを積んで、早朝五時に出発、神戸市兵庫区の能福寺へ輸送し、神戸市長田区の丸山中学校で、うどん一千百食、カップするこ五百個の炊き出しを行った。同仏青ではこれだけにとどまらず、今後も救援活動を継続してゆくことになるようだ

臨黄

少年少女洋上研修は中止

●妙心寺派 兵庫県南部地震被災者対策のため、宗務本所内にこのほど救援対策本部が設けられた＝写真上【写真は省略】。この種の組織は宗制には規程されていないが、事態の重大性に鑑み超法規的措置として設置した。本部長に小倉宗徳宗務総長が就任。副本部長には羽賀文圭総務部長、事務局長には宮田正勝花園会本部長が就き、内局の残る教学、財務、法務、花園会館各部長が委員を務め、今後の一派被災寺院、檀信徒並びに一般被災者支援対策の推進に当たる。「この震災には、宗門としても緊急時の対応、仏教者の使命、宗制の運用のあり方など考えさせられるものが多かった。対策本部の設置や検討中の緊急時対応マニュアルもそうだが、血の通った宗政が必要だろう。今回の経験から謙虚な姿勢で学びたい」と羽賀部長は述べている

▽宗務本所は一日付で本派寺院の被災状況調査結果を宗議会議員、宗務所長、支所長あてに報告した。救援対策本部はこのほか関係寺院の檀信徒、花園会員を含めた全体的な被災状況の客観的な角度からの把握に力を注いでいる。しかし檀信徒の安否、避難場所など、菩提寺の段階でも依然不明という例も多く、調査完了のメドはまだ立っていない（一派寺院被災状況の詳細は記事面後報）

▽兵庫県南部地震の影響で、花園会本部が計画していた「少年少女洋上研修」が中止されることになった。三月二十七～二十九日の二泊三日で実施する予定だったが、新幹線など交通網が寸断され、出発地への参加者の集合に影響が避けられないことや被災者の心情を配慮し、三十一日の全国花園会会長会でも「中止しては」という意見が出ていた。本山が遠諱法会中であるため特に企画された洋上研修が取りやめになり、今年は少年少女研修自体が開催できないことになった。参加申込金は旅行業者を通じて全額返却される運び

▽京都・法輪寺（佐野大義住職）節分大祭が二日から四日まで執り行なわれた。「震災でいろいろな催しが自粛になったが、被災者の皆さんを力づけるためにもこの節分は盛大にやらなくては」と佐野住職。恒例のだるま寺和尚の墨跡即売展は今年、特に被災者救援を目的に掲げて実施したが、反響は大きく例年の倍以上の売れ行きだったという＝写真下【写真は省略】

▽「震災で被害を受けた寺院は檀徒も被災して復興は大変だろう」と佐野住職。「一派で有住寺院は三千カ寺はあるはず。一カ寺五十万円ずつ拠出すれば十五億円になる。これを十年間無利子という形にして被災寺院に貸し付けてはどうか。宗議会で検討してもらいたい」との提言だった。

真宗

各教区分対応状況

●本願寺派 四日付の本欄で近畿地方以东の各教区の兵庫県南部地震についての救援活動の現況を紹介したが、今回

は備後教区から沖縄開教事務所までの十四教区の取り組みについて紹介する。なお、活動内容は一日現在のもの（本紙取材による）

▽【備後教区（徳本樹界教務所長）】

▼義援金＝教区の義援金二百万円を本山に。一月二十七日、福山、三次の両市で街頭募金を行ない八十一万円を集める▼救援物資＝一月二十日、四トントラック、ワゴン車二台で兵庫教区へ水など救援物資を届ける▼人員派遣＝教区と青年僧侶の会「備龍会」（和泉晃仁会長）が呼び掛け、一月三十日に山名浩明教区会議長、僧侶、仏婦、仏士の会員十二人をボランティアとして派遣。神戸市兵庫区の善照寺を拠点に二泊三日で交代しながら常時十人以上が常駐、二月いっぱい復旧救援と炊き出しにあたる

【安芸教区（高橋廣爾教務所長）】

▼義援金＝教区から義援金五百万円を本山に届ける。各寺院は法座等で門信徒に義援金を募集中。一月二十六、二十七の両日、広島市内で街頭募金を行ない、集まった九十万円を中国新聞社を通じ日赤へ▼人員派遣＝現在、教区では青年僧侶の会「春秋会」を通じて協力を要請中。三日の教区会の後で派遣へ

【山陰教区（十林順正教務所長）】

▼義援金＝仏教婦人会が本山へ義援金五十万円を送る。教区では各寺院に協力を要請中▼救援物資＝青年僧侶の会「楽法会」（小笠原寧之会長）が兵庫教区へ救援物資を届ける▼今後の検討事項＝三日に教区常備会を開いて具体的に検討する

【四州教区（新林秋城教務所長）】

▼義援金＝教区内の各寺院に協力を要請し、これまでに集まった四百五十万円を第一次分として本山に届ける▼人員派遣＝二月六日から十日まで教区内の僧侶ら七、八人が被災寺院の復旧救援などのため現地へ行く予定

【山口教区（桑羽隆慈教務所長）】

▼義援金＝二月二十日までに三千万円をめどに義援金を募集中▼救援物資＝教区内の僧侶有志が教務所の救援物資も車に積み込んで兵庫教区へ▼人員派遣＝災害対策派遣員を募集中。二月六日から十日まで第一陣を派遣し、その後も第二、第三の人員を派遣

【北豊教区（今井秀鳳教務所長）】

▼義援金＝教区内の九つの組を通じて義援金を募集中▼人員派遣＝二月六日に第一陣が現地へ向かう▼今後の検討事項＝二月四日に災害対策委員会を開いて検討する

【福岡教区（榎本義俊教務所長）】

▼義援金＝教区の義援金百万円を本山を通じて兵庫教区などへ。現在、各寺院や門信徒を通じて義援金を募集中

【大分教区（升巴隆夫教務所長）】

▼義援金＝教区内の各寺院等を対象に義援金を募集▼人員派遣＝被災寺院の復旧へ人員派遣を検討する

【佐賀教区（園井孝顕教務所長）】

▼義援金＝各教化団体等を通じて門徒一戸につき五百円以上、総額一千万円を目標に義援金を集める▼人員派遣＝基幹運動推進委員会社会部が各寺院に呼び掛け、兵庫教区の要望等を考慮して復旧支援のための人員を派遣してゆく

【長崎教区（藤氷弘暁教務所長）】

▼義援金＝一月十九日に藤永教務所長が現地に赴き、大阪教区に教区から百万円、仏教婦人会から三十万円、また、兵庫教区には教区から百万円、仏婦から五十万円の見舞金を送っている。現在、各寺院や仏婦が義援金の募金活動を展開中▼人員派遣＝一月三十一日から二月三日まで第一陣の島原地区の僧侶六人が現地で被災寺院の復旧を支援

【熊本教区（沙々木善海教務所長）】

▼義援金＝兵庫教区に教区から見舞金二百万円を送る。現在、各組長を中心に教区内の全寺院に義援金を依頼、また、各教化団体も募集中▼人員派遣＝本山、兵庫教区等から要請があればいつでも出て行けるように派遣の準備は整えてある

【宮崎教区（佐々木信証教務所長）】

▼義援金＝宮崎別院をはじめ教区内の全寺院に募金箱を設置して被災寺院の復興支援を目的とした募金活動を展開中▼人員派遣＝教務所職員を含め被災寺院の復旧支援のための人員派遣を検討中

【鹿児島教区（大八木廣澄教務所長）】

▼義援金＝鹿児島別院、教務所の職員四人が一月二十日、兵庫教区へ三百万円の見舞金、救援物資を届ける。鹿児島市内四カ所で街頭募金を実施し、約百四十万円を日赤に届ける。教区内の各寺院、各教化団体を通じて義援金を募集中▼人員派遣＝各寺院、仏教壮年会、仏教青年会等の組織に人員を募り被災寺院の復旧支援のために派遣を検討中

【沖縄開教事務所（末澤静覚事務所長）】

▼義援金＝五日を第一次締め切りとして開教地内の寺院、門信徒に義援金を募集中

▽佐賀龍谷学園（篁昭観理事長・木山星生学園長、佐賀市）は、今年四月に発足する宗門関係学校のネットワーク「龍谷総合学園」に参加を決定。

園児も犠牲に...

▽既報のように今回の兵庫県南部地震は兵庫教区（土基謙教教務所長）の二百を超える寺院に甚大な被害をもたらし、また、十一人の寺族と多数の門信徒が犠牲となったが、一月末現在での災害対策臨時本部委員会（委員長＝松村了昌総長）の調査では、これら被災寺院が運営していた幼稚園、保育園にも大きな被害が出ていることが判明している。兵庫教区保育連盟所属の幼稚園、保育園で今回の震災で被害を受けた園は十六園。このうち、神戸東組善立寺（松岡恒雄住職）の大石保育園（園長＝松岡住職）では寺院と園舎には被害がなかったが、通園している園児二人が死亡し、他にも安否が確認できない園児がいる。また、神戸湊組西光寺（藤井基住職）の湊川保育所（園長＝藤井住職）でも通園の園児一人の死亡が確認されている。さらに神戸東組誠照寺（末永常信住職）の誠佛保育園（園長＝末永住職）でも安否の確認できない園児がいる。園児の無事は確認できたものの数人の園児が疎開している園が、阪神南組浄元寺（宏林栄泰住職）の若葉保育園（宏林康子園長）、同組浄徳寺（廣岡憲雄住職）の梅の花保育園（廣岡典子園長）、阪神西組善教寺（赤井秀顕住職）のパドマ保育園（赤井敏子園長）の三園。この他、園舎の破損がひどく保育再開の見込みが立たないのが、誠佛保育園、神戸中組光尊寺（廣瀬照晴住職）の山手幼稚園（園長＝廣瀬住職）、湊川保育所、神戸湊組光明寺（山西宏昭住職）のルンビニー愛児園（園長＝山西住職）、睦学園須磨幼稚園（西口純子園長）の五園にものぼっている

▽三日、本山宗務所で議事運営委員会（伊井智昭委員長）が開かれ、兵庫県南部地震で甚大な被害を受けた兵庫、大阪の両教区の寺院の救済策を検討する第二百四十一回臨時宗会（北條成之議長）では、議員全員が歳費（二十万円）を被災寺院の復興のための「協力金」として拠出することなどについて話し合われた

▽兵庫県南部地震により兵庫、大阪の両教区内の寺院に大きな被害が出たことにより、緊急の教務所長会が三日、本山宗務所で開催された。被災寺院の復興を支援するため松村了昌総長は宗門内に「協力金」拠出を要請する意向であるが、所長会でもこの「協力金」の趣旨、目的などについての説明があり、各教務所長らに協力の要請が行われた。また、この席上では各教務所長から各々の教区が集めている義援金の額についての報告がなされた。三日現在で災害対策臨時本部委員会が纏めたところによれば、各教区や団体、個人などから寄せられた義援金の総額は約七千六百万円。このうち本山分は約五千九百万円、兵庫教区分は約一千七百万円。

被災寺は計二十三カ寺

●**仏光寺派** 兵庫県南部地震で被災した寺院は兵庫県で十三カ寺、大阪府で十カ寺になるという。地震対策本部では一月二十日、地元兵庫組の八木浄顕宗議を被災した高福寺（藤末専精住職、神戸市長田区）などへ派遣。二十三日には日野英宣総務と岸本秀一財務部長が西宮方面へ、清原純兵庫組長は神戸市内の五カ寺へ向かい各々、見舞金と

薬品などの救援物資を手渡した。二十五日には梨本哲雄宗務総長と赤松晃正総務が最も被害の大きかった兵庫県芦屋市の如来寺（藤谷信道住職）、聖徳寺（三上教道住職）を訪問。同じく見舞金と救援物資を送った。さらに、二月三、四の両日には赤松総務と仲井秀明庶務部長が大阪教区第一組、第二組の数カ寺、第四組の計六カ寺へ出向いた。▽梨本宗務総長は本末共済金からの支出と門末から受け付けている義援金を合わせて二月末に被災寺院へ手渡す。なお、本末共済金は二千六百万円の基金を持ち、本堂倒壊の場合で五十万円が支払われる。▽梨本内局は被災地の檀家にと一千体の三折本尊を急遽作った。すでに、仏壇が焼失した檀家約四百軒から申し込みがあるという。

▽大阪教区の被災状況は次の通り。西光寺＝山門倒壊

▽妙円寺＝本堂梁破損、鐘楼傾く

▽浄方寺＝土塀約二十メートル倒れる

▽光用寺＝山門傾く、本堂に大穴あく

▽福泉寺＝本堂欄間落下、庫裡屋根瓦破損

▽光明寺、光曜寺＝内陣荘厳具破損

▽光福寺＝本堂屋根瓦破損

▽正念寺＝本堂屋根瓦落下

▽称光寺、宝林寺＝本堂壁亀裂

▽西運寺＝本堂壁落下

▽本光寺＝境内灯籠倒れる。

浄土

被災地に学用品をと鉢

●**浄土宗** 佛教大学教授で日本書道文化研究所所長を務める京都府田辺町極楽寺の加藤達成住職ら約十人が一月三十一日、京都市下京区四条烏丸角で、兵庫県南部地震の被災児童らに文具、学用品を送ろうと、救援鉢を行なった＝写真【写真は省略】。鉢には内室の俣香さんや日本書道文化研究会のメンバー、同教授が教えている佛教大学四条センターの書道講座の受講生、仏教大学の学生らも参加。加藤教授と俣香夫人は饅頭笠に墨染めの衣姿、手に鉢を携えて底冷えのする街角に立ち、道行く市民に義援金や学用品の協力を訴えた。被災地では文具や学用品を買い求めることが困難なことから、学童、生徒らに役に立ててもらいたいと救援鉢に立ち上がったもの。寄せられた学用品と義援金は地元の新聞社に寄託した。同教授らの鉢を支援して、東京、京都、奈良などの文具店やメーカーなどからも学用品が寄せられた。同教授らは二十八日にも、地元の田辺町で救援鉢を行ない、集められた鉛筆やノート、半紙、墨汁など学用品を、義援金とともに同町の教育委員会に託した。

▽三億円を目標に募金を呼びかける一宗の呼びかけに応じて、各教区でも義援金の募金が大きな広がりを見せている。既報の通り東京教区が一千万円を目標に、大阪教区が二千万円を目標に募金活動に取り組んでいるが、京都教区でも、教区内寺院に当麻信章教区長名で義援金の依頼状を発送、募金活動を始めている。

新宗教

開教五十七周年式典

●**思親会** ▽「現状の便利な生活に慣れ過ぎた感がある」。兵庫県南部地震の発生直後、法座のある芦屋市へ向かい、四日間救援活動をして戻った本部職員の飯島法道氏は、その経験からこう振り返った。戦後、焼け野原から出発し陰しい人生を生き抜いてきた人たちが「電気がない」「釜がない」と言って米も炊けなかったという。現地で

は鍋を使って米を炊いたところ、七十のお爺さんは「そういうこともできるのか」と関心したそうだ。。「精神的なショックもあるだろうが、自分で生きる術を忘れている」。今やお金を出せば、おにぎりでも何でもコンビニへ行って物を得られる時代ー。それが慣れ性になっていざという時に何もできない。「この五十年で過去の知恵、記憶が押し込められてしまったようだ」とも。しかし一方で、非常事態になって“壁”がなくなり、互いに少ない食料を分け合い、助け合う姿もあった。こうした経験で「価値観が変わった」と語る。

諸団体

被災会員らに義援金

●**近畿宗教婦人連盟** 関西の仏教、教派神道などに属する女性で作る同連盟（委員長＝木辺美子真宗木辺派前裏方）は、兵庫県南部地震で被災した同連盟の会員たちにと義援金を募っている。滋賀県宗教婦人連盟（委員長＝石倉しげ時宗最明寺）ではすでに約三百万円の善意が寄せられたほか、京都、大阪でも募金を繰り広げている。二月中旬には木辺委員長、大谷綾乃副委員長（大谷婦人会会長）らが被災した神戸市の上田敏子兵庫県宗教婦人連盟委員長（本願寺派妙善寺）を訪れ、集まった義援金を手渡す予定
▽一月二十八日付十九面の同連盟の記事で、大会の開催日は九月二十七日の誤りでした。お詫びして訂正します。

天理

被災者から礼状が届く

●天理中学校と天理小学校の生徒や児童らが作ったおにぎり約二万個をはじめ、缶詰やカイロなど合わせて約三千二百Kgの救援物資が一月二十日、自衛隊のヘリコプター四機で被災地に届けられたが、このほど被災者からの礼状が両校に届き、生徒たちを感激させている
▽同中学校では、一人二十個のおにぎりを持ち寄ることが十九日の緊急全校集会で決定。三個をひと包みにしたおにぎりに、生徒の学年氏名や激励のメッセージが添えられた。また、同小学校でも児童から「おにぎりを送ろう」との声が上がり、一人十個のおにぎりを持ち寄った。このほか、天理高校や海外布教伝道部も協力。おにぎりのほか、タオルやおむつなども寄せられ、結局、総計約三千二百キログラムの救援物資が集まった。二十日午前、生徒や児童らが見守る中、救援物資は四機のヘリコプターに積み込まれ、被災地へと向けて飛び立った
▽その後、被災者から「真心のこもったおにぎりをご馳走になりました」などと礼状が次々に届き、同中学校ではこれらを掲示板で紹介した。被災者からの礼状を読んだ生徒たちは、「真心が通じた」と喜んでいる
▽災害救援対策本部（本部長＝畑林清次表統領）は、被災地へ各教区の災害救援ひのきしん隊の派遣を行なっているが、神戸市へ兵庫西隊が、芦屋市以東へ兵庫東隊が出動。両隊とも一般の倒壊家屋や被災教会などの復旧作業に当たっている。
